

■白畑孝太郎 在野の昆虫学者。警察勤務のかたわら、山形県中心に標本採集につとめ、環境保護の必要性を訴え続けた。

しらはたこうたろう
第一次大戦始

1914 = 山形県南村山郡宮生村(上市市)宮脇で、鈴木善三郎・ナカの子に生まれる。九人兄弟の三番目。

母は泉鏡花を愛読、長兄がのちに詩人となるなど、文学的家族に囲まれながら、
宮脇尋常小学校に入学。

原敬首相暗殺

1921 = 7歳 :

関東大震災・1923 = 9歳 : 4年生の時の 担任から自然観察の初歩を教えられて、興味を抱き始め、
護憲三派圧勝1924 = 10歳 : 神社で美しいチョウをみかけるとその名を知りたく、父が不況のなか米三俵を売って高価だった原色図鑑を買ってくれ、キタテハと知ると、以後、図鑑に熟中。
円本時代始・1926 = 12歳 : 卒業。家計は一層厳しくなって中学進学できず、農作業を手伝った後、函館に渡り、下駄屋に住みこみながら、商業学校に通うも打ち込めず、

海軍軍縮条約1930 = 16歳 : ようやく家族の理解も得て帰郷、農作業をしながら、_昆虫学を独学でやろうと決意。{子供の科学}交換欄通じて、東京の田口萬寿男と親交、{昆虫趣味の会}ができることを知るや入会、多くの研究者らも知る。

満州事変・1931 = 17歳 :

五一五事件・1932 = 18歳 :

国際連盟脱退1933 = 19歳 :

帝人疑獄事件1934 = 20歳 :

芥川直木賞始1935 = 21歳 :

二二六事件・1936 = 22歳 :

日中戦争始・1937 = 23歳 :

{昆虫趣味の会}の*機関誌{昆蟲界}に初の論「エゾハルゼミの小観察」を発表。

続いて「蔵王産附近の蝶類数種に就いて」。

柔道が得意で試験受に合格、山形県警察に採用され、酒田警察署に赴任。_以後、警察勤めしながら調査。

憧れていた鳥海山に初めて登るなど、暇を見つけては、庄内を歩き、

来訪した新庄の同好者伊東巖との確認により、_全国に先駆けて、ギフチョウ・ヒメギフチョウの混生地が山形県にあることを発表。

第二次大戦始1939 = 25歳 :

日米開戦・1941 = 27歳 :

・1942 = 28歳 :

応召により中国山西省に渡る。昆虫を採集・観察し、{昆蟲界}の「戦線虫便り」など、各誌に寄稿。

部隊長名による昆虫標本持出し許可証も得て、復員。

東根町神町(東根市)の小田島駐在所勤務。この頃、下宿先の娘白畑礼子と結婚し、以後、白畑姓を名乗る。

また、親友伊東を事故で失う一方、何度も来訪してきた_黒澤良彦と親友となり、のちに世界的なタマムシ研究者となった黒澤が山西省の標本を調査し、新種を発見、シラハタクリタマムシ(shirahatai)と命名、

「山形縣に於けるマダラナニハトンボの棲息地に就いて」。

再び応召、中国湖南省に渡る。行軍を重ねるなかで昆虫を採集、

この間、留守宅が空襲に遭うも、妻が必死の努力で標本と書籍を地中に埋めて守る。敗戦とともに捕虜、

標本持出し困難と選りわけたところに許可が出、処分したのを悔やみながら復員、東根町勤務。

この間、同じく中国から復員した神野駅前旅館の主人で鳥類学者_高橋多蔵と親友になり、影響を受ける。

この頃、再び酒田警察署に勤務、以後没するまで酒田に在住。*新種を発見、シラハタリンゴカミキリが誕生、タイリクアキアカネが日本に飛来していることも初めて確認。

「孤島・飛島紀行」。

朝鮮戦争始・1950 = 36歳 :

独立回復・1951 = 37歳 :

TV放送始・1953 = 39歳 :

「山形県のギフチョウ属」。

職場での昇進試験を受けずに、一介の巡查であり続け、

美智子妃・1959 = 45歳 :

*高橋多蔵が奔走し、各分野の研究者が一緒になって動植物を調査する山形県総合学術調査会が発足、黒澤と昆虫類を担当。まず朝日連峰が対象地となり、山形県庁から酒田警察署に調査のための特別休暇要請があり、年に数度まとまった調査ができる一方、共催していた{山形新聞}の取材にも応じて適宜コメント、

安保闘争・1960 = 46歳 :

1961 = 47歳 :

TV宇宙中継始1963 = 49歳 :

東京リボルヴ1964 = 50歳 :

この年、若手が中心になって山形昆虫同好会が結成され、のちに名誉会長に迎えられる。

自らの意思と関係なく、県内では名物巡査学者として有名になり、_斎藤茂吉文化賞受賞。

朝日連峰の学術調査報告書がようやく出版され「朝日連峰の昆虫類」を発表。以後も、国立科学博物館に勤める黒澤と各地の調査に参加し共同で報告論文発表。

日本昆虫学会より表彰される。

美濃部都知事1967 = 53歳 :

霞ヶ関ビル・1968 = 54歳 :

全共闘ビーク・1969 = 55歳 :

ドルショック・1971 = 57歳 :

高橋が推進してきた県立博物館の実現見通しがたち、県からの要請で退職、博物館準備室に勤務、

山形県立博物館開館、高橋とも正職員になれず囑託、失意にもめげず、カメラをもって、失われて行く環境風景を記録しながら調査を続け、「山形昆虫誌」の構想を抱き、

月山でのダム開発予定地で調査、新種発見し、シラハタネクイハムシ(ロシアでもプラテウマリス・シラハタイ)と名付けられる。以降、各地の公共事業関連の調査が舞込むようになり、一層焦りを覚え、

石油ショック1973 = 59歳 :

角栄金脈辞任1974 = 60歳 :

高橋らと、念仏ヶ原を踏査するなど奔走し、

高橋ら囑託で、博物館研究報告のほとんどを執筆し、

JALハイジャック・1977 = 63歳 :

なお、黒澤と山形県総合学術調査会に参加して報告をまとめるが、

革新大敗北・1979 = 65歳 :

貿易摩擦問題1980 = 66歳 :

*不慮の病に倒れ、

没した。

没後、黒澤・菊地賢治の手によって「山形県産昆虫目録」がまとまる。標本を県立博物館開館に寄贈する話は流れ、動物研究部長になっていた黒澤によって国立科学博物館に引取られる。